

特産トコブシの放流効果を高めるための中間育成試験

熊毛支庁 林務水産課

【背景・目的】

トコブシは種子島を代表する重要な資源であるが、近年その漁獲量は減少の一途をたどり、ここ最近の水揚げは約5トン（H22年）で最盛期（S56）約74トンの1/15と激減している。これまで、各種事業を活用し種苗放流等行っており、一定の効果は見られるものの、資源の回復までには至っていないのが現状である。

放流効果の向上を図るために、放流種苗の大型化を望む声が多いことから、漁業者自らが実施可能な、小割イケスかご方式での中間育成技術の開発を行った。

【普及の内容・特徴】

試験は中種子町熊野漁港蓄養水面にて実施。鋼管イケス内にもじ網を敷き、ネトロンネットかごを2かご設置しトコブシ種苗を収容した。

平成22年8月24日に、トコブシ稚貝2,760個（総重量から推定）を県栽協から購入し試験を開始。給餌は基本1回／2日（夕方）とし、給餌量は重量の1.8%を目途に摂餌残餌の状況等により適宜調整した。

なお、餌には日本農産工業（株）のアワビ用配合飼料を用いた。

平成22年12月14日（飼育期間112日目）に、体側、計数を行い、2かごから4かごに分槽した。

平成23年3月15日（飼育期間203日目）に2回目の体側、計数を行った。

また、コスト低減化の為の流れ藻の餌料使用可能性を検討するため、この日以降4かごを試験区に見立て、配合のみ給餌（1，2区）、海藻のみ給餌（3区）、配合＋海藻給餌（4区）の4試験区を設定し比較試験を開始。

【成果・活用】

3月15日までの成長等の推移を表－1に示した。日間成長0.06mm／日と概ね良好な結果を示し、生残率についても83.7%と良好な結果を示した。

飼育期間中の水温の推移は図－1に示したとおり。最高30.2℃、最低15.2℃であり、飼育結果からもこの水温帯であれば十分飼育可能であることが示唆された。

なお、3月15日から開始した、コスト低減化に関する比較試験については、現在も計測中であり、飼育開始後1年（平成23年8月24日）を目途に終了し、データを取りまとめる予定。

【その他】

漁協等からは、トコブシ資源の減少に伴い仕入単価が高騰し（H元年：2,821円／kg→H22年：5,852円／kg）加工用原料の確保が困難になってきており、養殖により加工用原料を確保できないかとの要望がある。今回の試験結果（コスト計算も含む）を基に、事業として養殖が可能か検討する予定。

表－1 成長等の推移

殻長

日 付	飼育日数(日)	平均殻長(mm)	最大(mm)	最小(mm)	日間成長率(mm/日)
H22.8.24	0	27.6	38.5	21.1	—
H22.12.14	112	34.6	43.3	26.7	0.063
H23.3.15	203	39.8	48.4	30.3	0.060

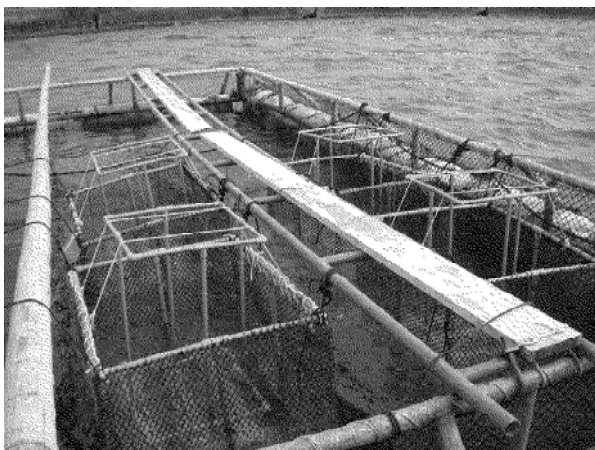
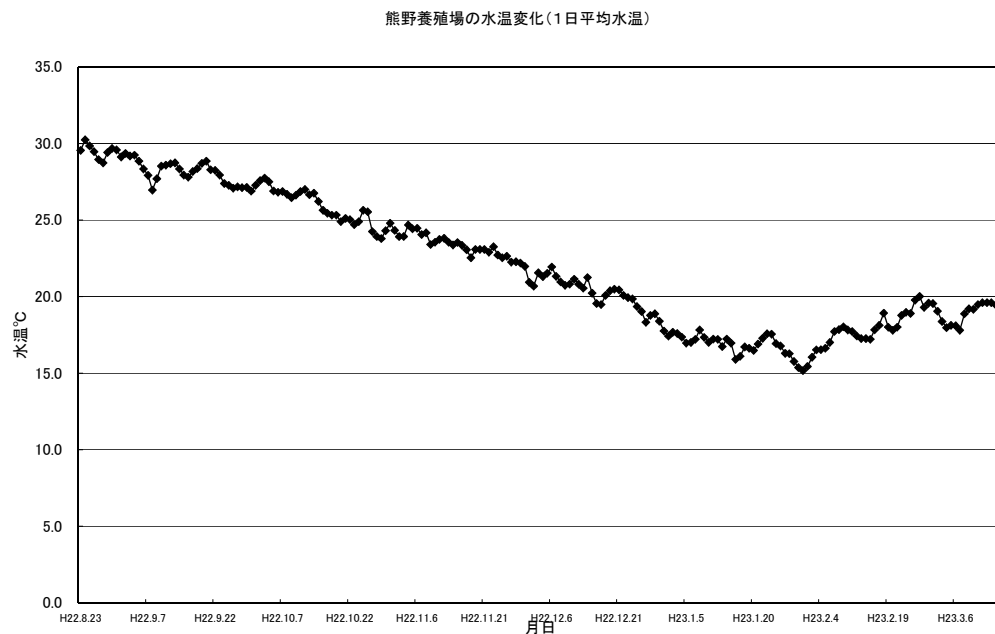
体重

日 付	飼育日数(日)	平均体重(g)	最大(g)	最小(g)	日間成長率(g/日)
H22.8.24	0	2.68	—	—	—
H22.12.14	112	5.87	2.45	10.25	0.028
H23.3.15	203	9.00	3.66	17.99	0.031

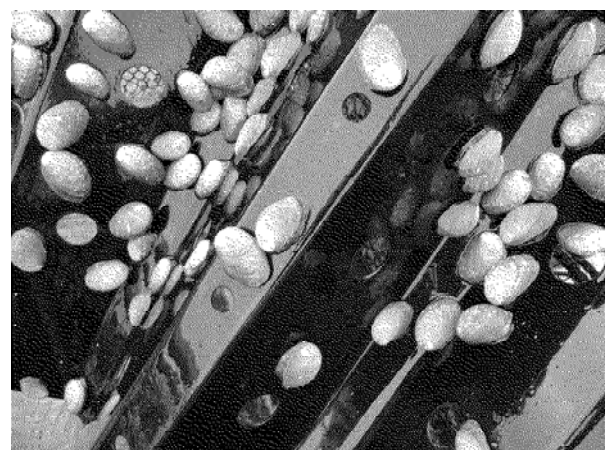
生残率

日 付	飼育日数(日)	推計個数	生残率(%)
H22.8.24	0	2,760	100.0
H22.12.14	112	2,880	104.3
H23.3.15	203	2,310	83.7

図－1 水温の推移



かごの設置状況



種苗の状況